

こどもと健康

NO・136 2013・6・27

風疹、更に流行拡大中！

昨年秋から関東、関西を中心に風疹が流行しています。過去、風疹は数年ごとに流行を繰り返してきましたが、最近は大きな流行はありませんでした。はしか・風疹混合(MR)ワクチンは1歳児の1期に加え、2006年から就学前児(年長組)に対する2期接種が始まり、2008年からは中学1年生(3期)と高校3年生(4期)にも2回目を接種するようになりました。この3期と4期の接種は本年3月31日で終了しました。その結果、5年前には年間数万人が罹患した「はしか」は昨年には293例にまで減少しました。堺市でもここ3年半、「はしか」の患者さんは出ていません。所が、昨年から関西で成人男子を中心に風疹の流行が始まり、年が明けてから関東で、3月からは地方でも流行が拡大しています。風疹は2010年には全国で87例、2011年378例でしたが、昨年には2392例に急増、今年は6月16日第24週までに10822例が報告されています。東京都2686例が最多で次いで大阪府2432例、神奈川県1295例、兵庫県918例、千葉県567例と大都市周辺で流行し、最近は大阪府での流行が目立ちます。第19～22週は全国で800例を超えていましたが、その後減少に転じ第24週は550例の報告でした。10822例のうち77%が男性でそのうち30歳代17%を占め、その割合は流行が拡大しても殆んど変化していません。これは1977年～1995年まで中学生女子のみを対象に風疹ワクチンが接種され、その後2003年までは男女ともに接種対象になりましたが接種率が低く、2回目のワクチンがされなかった影響が大きいようです。

風疹は小児がかかれば「三日ばしか」と言われるように、発疹と発熱、リンパ腺腫脹を訴えますが、一般的には軽症で時に、血小板減少性紫斑病や脳炎を合併します。成人が罹患すると高熱があって発疹も強く関節痛を伴い長引く傾向があります。特に妊娠初期に罹りますと、胎児が先天性風疹症候群となり、先天性心疾患、難聴、白内障の他、発育遅延、小眼球等の奇形児が生まれます。妊娠1カ月に感染すると50%、2カ月で35%、3カ月で18%、4ヶ月で8%に先天性風疹症候群が発生すると言われます。先天性風疹症候群は2004年に10例の報告がありましたが、その後7年間で5例に過ぎませんでした。所が昨年秋から相次いで11例が報告され、うち2例が大阪府、2例が兵庫県でした。全国へ流行が拡大するにつれ、先天性風疹症候群の児がもっと増加する恐れがあります。

予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。堺市では5月23日～9月30日に限り、19歳以上の(1)(2)に当てはまる方に予防接種費用の一部助成制度を始め、自己負担額は1000円です。(1)妊娠を希望する女性(妊娠中はできません)(2)妊娠している女性の配偶者(婚姻関係を問いません)接種ご希望の方は電話で予約をお願いします。

子宮頸癌予防ワクチン、接種勧奨一時中止

本年4月からの予防接種法改正により、定期接種となった子宮頸癌予防ワクチンが複合性局所疼痛症候群（CRPS）の疑い例が報告されたので、一時接種勧奨を中止することになりました。

複合性局所疼痛症候群（CRPS）は注射や骨折、捻挫等の痛みが拡がり続く病気で、一般的に痛みが続く病気を「慢性疼痛」と言い、腰痛や五十肩の他、CRPSもそのひとつです。CRPSは症状が様々で、痛みが拡がるのが特徴ですが、個人差も大きく全身に拡がるケースや手足だけのケースもあります。痛みの拡がり方も連続的に拡がる人もいれば、左足から右手に飛ぶ人や左右対称に出る人もいます。痛みのある手足は腫れる人が多く、皮膚の温度や発汗の異常、手足の震え、歩けない等の運動機能の異常を訴える人等様々です。子宮頸癌予防ワクチン接種後に注射部位に限局しない筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み、しびれ等が現れ、長期間持続するCRPS疑い例が5例、慢性疼痛が38例報告されました。これまでワクチン接種後に一時失神するケースが5000例に1例程度報告されていましたが、これらの慢性疼痛症例やCRPSがワクチンと関連があるのか、詳しく調査分析されますので、結果が出るまで一時接種勧奨を中止することになりました。日赤の献血者でも2009年度に約530万人のうちCRPSは24例発生しており、ワクチン接種者は累計300万人位ですので、必ずしも多いとは言えません。結論が出るまで、当院でも一時中止しますが、既に1回目、2回目の接種が済んでいる人で、希望される方には接種しますので、ご相談下さい。

B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

7月28日は「世界肝炎デー」です。本年4月から予防接種法が改正され、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌予防ワクチンが定期接種となりました。今後、水痘（みずぼうそう）ワクチン、ムンプス（おたふくかぜ）ワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンに拡大されることが期待されます。それまでは任意接種で対応するしかありません。みずぼうそうワクチン、おたふくかぜワクチンは次第に接種者が増加してきましたが、B型肝炎ワクチンは未だ周知されていないようです。日本では1985年に母子感染予防事業が始まり、生後すぐγグロブリンとワクチン接種により一定の効果をあげています。1992年にWHOは加盟国に接種勧奨を開始し、現在では加盟193カ国中、177カ国で定期接種化されており、残念ながら日本は数少ない国になっています。B型肝炎は以前血清肝炎と言われたように輸血等汚染された血液に触れることにより感染します。現在輸血用の血液は全て検査によりB型肝炎ウイルスに汚染された血液は除外されていますので、安心して輸血を受けられます。日本人の1%程度には症状のないキャリア（健康保菌者）がいますが、血液だけでなく唾液、涙、汗、尿、精液等にもウイルスは検出されます。保育所、幼稚園、学校等集団生活により感染する可能性があります。B型肝炎は肝硬変から肝臓に進行しますが、現在日本で肝臓で亡くなる方が約3万人、その3分の1がB型肝炎によるといわれます。B型肝炎ワクチンは癌予防ワクチンと考えられますので、早めに接種をしましょう。生後2ヵ月から接種できますが、ヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンが済んでからでも良いでしょう。

6月の休診のお知らせ

所用のため、7月13日（土） 休診 させていただきます。